

勇者は君だ！

ナツキ
ナツキの母
男

作 池浦典子（横浜 劇団麦の会）

ナツキの部屋

ナツキはゲームに熱中している。

ナツキ

うわっ、やられたー。今日は調子悪いなー。

誰もいない部屋の明かりがあやしく点滅を繰り返す

ナツキ

ん…？気のせいか。

ナツキ、再びゲームに向かう

怪しげな音楽、照明の中

男が現れる男はゲームの中に出てくる魔法使いのような格好をして、いかにも、な感じの杖を持っている
ナツキは、気がついたようで、チラッと見るが、さほど驚きもせずゲームに夢中

男

ハハハハハハ

ナツキ

静かにして！今大事なところ！

男

(ニヤリと笑い) さすが、勇者殿。突然、私が現れてもおそれたりなさらない。

ナツキ

魔法使いでしょ。

男

わかっておられるなら話は早い。あなた様を迎えにきました。私は魔法使いのアルベルト・デル・モンテ・エル
コン・サンチェス・ダニエル・タロウ・ヴァン・デン・シンドラー

ナツキ

ふーん、シンちゃんね。で、何？

男

勇者殿、われわれの世界に危機が迫っているのです。それというのも

ナツキ (ゲームに夢中!) うわ!やば!

男 聞いてください。

ナツキ だってー、どうせ、伝説の魔剣えっさほいさで悪の化身なんじゃらほいほいをやっつけろ、って話でしょ? もっと威厳のある名前はおもいつきませんか?

ナツキ 魔剣「東京特許許可局」で悪の化身「青巻紙赤巻くく」

男 (無視して) 世界を救えるのは、伝説の秘宝を持つあなただけなのです!

ナツキ (わざとらしく、驚く) ええー

男 驚くのも無理はありません。あなたは自分の持つ秘宝が何なのかさえわからないでしょう。それはっ
行かないやダメなお?

男 はあっ?

ナツキ それって強制?

男 秘宝が何かは気にならないんですか?

ナツキ 行かなくていいなら、別にどうでもいいじゃん。あ、持っていく?

男 なに言ってるんですか!それはあなたが持つてこそ効果のある宝なのです。あなたにとっては何の変哲もない、
当り前の物かもしれない。しかし、それこそがっ

ナツキ のど乾いたな。

男 あの、もう少し普通の反応してくれませんか?それ、どう考えても一人でくつろいでる時の反応でしょ。

ナツキ ごめん、そうだね

男 信じられないのはわかりますけど

ナツキ あんたの分も持つてくるわ

男 いりません

ナツキ めんどくつせえなあ

男 あなたのせいです!もう少し関心もって、僕の話、聞いてくださいよ!

ナツキ はいはい。どこまで聞いたつけ？なんじゃらほいがどうしたって？

男 全然聞いてないし…

ナツキ (わざとらしく) そんな秘宝、あたし持ってないよー。

男 それです！そういうのが大事です。

ナツキ (わざとらしく驚いて) えー、あれが秘宝？

男 まだですよ。

ナツキ あ、そ。

男 それは、こちらの世界ではどこでも見かけるもの。しかし、あなたの持つそれだけは、実はわれわれの世界に
 しかない非常に貴重な物質で作られているのです。それは一見、ただの

ナツキ タワシ

男 まじめに聞く気ありますか？

ナツキ ないよ。

男 なんですか？困ってる人は助けましょうって小学校の道徳で習ったでしょ？

ナツキ こっちにも都合があんの。仕事はどうすんのよ。

男 確かにあなたは、こちらの世界では、生活していくため働かなければならないでしょう。しかし、われわれの世
 界では食べる物、住む処、着る物、何も心配はいりません。もちろんの税金を納める必要もありません。それな
 ら、働く必要はないでしょう？

ナツキ それってニート？

男 勇者の役目があります

ナツキ パス

男 ダメです。

ナツキ 3回まではいいんじゃない？

男 4回目にはやってくれるんですか？

やるぞー！

まったく信用できない：

先週からウクレレの教室に行ってるの。三か月分、先払いなんだよ。もったいないじゃん。教えてあげます、ウクレレぐらい

来週、飲み会あるし。チカがすごいイケメンと知り合ってたって。楽しみにしてんだけど。

あなたを守る八人のナイトがいます。もちろん、みんな選りすぐりのイケメン達。

ふーん

どうです？あちらの世界も悪くないでしょ？なんと言っても、みんながあなたを必要としているのです。こっちでも少しは必要とされてるし。

どうしたら、来てくれるんですか？

自分たちの世界の事は自分たちで何とかしようよ。

この期に及んでそれですか。

あたし、好きじゃないんだよね。その、いつか誰かがなんとかしてくれるはず思想。

自分たちで何とかできるなら、勇者も救世主も必要ないじゃないですか。

いらねえじゃないの、別に。

物語として盛り上がりませんよ、そんなの。

あんた達の世界を盛り上げるために、あたしに今の生活、捨てろって言うの？

そういう意味じゃないです

あたし、今、自分が生きてるここの現実がけっこう気に入ってるの。特別じゃない自分が気に入ってるの。

ご自分に自信があるんですね：

まさかあ。でも、なんの取り柄がなくても今まで生きてこれたし、それなりに楽しいこともあったから、これか

らもこうやって生きていきたいの。

自分にすべきことがあっても？

ナツキ

男

ナツキ

男

ナツキ

男

ナツキ

男

ナツキ

男

ナツキ

男

ナツキ

男

ナツキ

男

ナツキ

男

ナツキ

男

ナツキ

男

男

ナツキ

こつちの世界に悪の化身「かえるぴよこぴよこ」がやってきたら戦うよ。

男

その時は僕たちの世界の力が必要になるかもしれないよ。

ナツキ

個人的には頼りたくないんだけど、アメリカの大統領あたりが勇者を探しに行くって言ったなら、あたしには止められないなー

：

ナツキ

いいかげんあきらめたら？そつちに行かなきゃいけない理由が、あたしにはないの。

男

言いたいことはわかりますけど、でも伝説の秘宝を使えるのはあなただけです。

ナツキ

だから、それ何のことよ。

突然、ナツキの母が入ってくる

母

ナツキ、ご飯食べないの？あら？

ナツキ

異世界から来た魔法使いだよ。

母

いかにもそれっぽいわ。

ナツキ

うちのかあさん、そういうコスプレとか大好きなの。あんたみたいな恰好して秋葉とかに行くんだ。

母

あたしのは僧侶よ。

男

はあ

母

ナツキお父さん今夜も遅いって、ご飯食べちゃいましょう。あなたも食べてく？

男

いえ、結構です

母

でも、意外ねー。ナツキは全然こういうの興味ないから、まさかこんな友達がいるとは思わなかったわ。良かったらこれからも遊びに来てね。

男

今日も遊びに来てるわけでは…

ナツキ

母 友達なんかじゃないよ。あたしを向こうの世界に拉致しようとしてるんだから。向こうの世界？へー、ナツキなんか連れてつても役に立たないわよ。

ナツキ あたしが持つてる伝説の宝物が危機の迫ったシンちゃん達の世界を救うんだって。

母 シンちゃん？ああ、あなたのこと。異世界から来たのに、ずいぶん普通の名前ね

男 普通にされたんです。

母 へー、で、その宝物って何よ。ナツキ、そんなの持ってたの？

ナツキ さあ？なんのことだか教えてくれないの

母 へーなになにー、教えてよ、シンちゃん

男 こういう反応をしてほかったなー、最初から

ナツキ 早く呼べばよかったね。

男 そういうことじゃ…ま、いいや。伝説の秘宝は、あれです。

男、指さす

ナツキ パソコン？

男 違います！

母 カーテン？

男 親子そろって、やめてくれませんか。

ナツキ シンちゃん、わかりにくいんだよ。

男 出窓のところ飾ってある、あの赤いアンティークグラスです。

母 へー、そうなの

男 反応がうすいなあ…

ナツキ シンちゃん、あれ、あたしのじゃないよ

男 ええっ！だって、ここ、あなたの部屋でしょ？

ナツキ そうだけど。この部屋にしか出窓がないから、ここに飾ってるだけ。

男 じゃあ、これは、あの、まさか…

母 あたしのね

ナツキ どうする？

男 どうするって？

ナツキ あれの持ち主が勇者なんでしょ？じゃ、そっちの世界救うのは、あたしじゃなくておかあさんだよ。

男 そうですね。

母 なんてがっかりしてるの？

男 いえ、がっかりなんて、別に

母 なになに、あたしが勇者なの？いいのかしらー？ナツキ、悪いわねー

ナツキ シンちゃんの世界が救えるのは、おかあさんしかいないんだって！もうこっちに帰ってこられないかもよ。

母 どうすんの？

母 向こうでは、みんながあたしのことを待ってるのね。分かりました！あたし、行きます。

ナツキ 行ってらっしゃい

男 そんな簡単に決めちゃっていいんですか？

母 カッコいいじゃない、勇者なんて。

男 おかあさんは話が早いですね…

母 そうと決まったら、世界を救いに行くわよ！ついてらっしゃい。アルベルト・デル・モンテ・オグリ・サンチェ

ス・ダニエル・タロウ・ヴァン・デン・シンドラー

男 なんて名前知ってるの？

ナツキ 行ってらっしゃい

母、軽い足取りで楽しそうに出ていく

男、後から着いていく

ナツキ、ゲームを再び始める

と、そこへ雷鳴とともに、男が現れるのかと思いきや、井上課長ご帰宅

井上 ただいま

ナツキ あとお帰りなさい（ゲームに夢中）

井上 ナツキく母さんは？

ナツキ あく外出中

井上 どこへ？

ナツキ 異世界かな？

井上 何しに？

ナツキ シンちゃんたちの世界を救う伝説の秘宝の持ち主が実はお母さんで、シンちゃんたちの世界を救いに？

井上 何言ってるんだ？ゲームの話じゃなくて

ナツキ うるさいなくお母さんがいなくても生きていけるでしょ！いい年なんだから！

井上 そういうことを言っているんじゃない

雷鳴と共に男が転がり込んで来る。

井上 ナツキ！だれだ！そいつは！

男 あの？

ナツキ あゝうちのお父さん。

男 あゝはじめまして、お父さん

井上 君にお父さんと呼ばれる筋合いじゃない！

男 あゝすいません。

井上 誰だね君は？

男 私は、アルベルト・デル・モンテ・オグリ・サンチエス・ダニエル・タロウ・ヴァン・デン・シンドラー

ナツキ 略してシンちゃん

井上 ふざけているのか？だれだ？お前は？どこに隠れてた？娘とはどういう関係なんだ！

男 (お父さんの、迫力に押されて) いや、あの

ナツキ お父さん、違うんだってば！

井上 ちがう？何が違うんだ？

ナツキ 私じゃなくて、お母さんのの

井上 なんだと！熟女好きかお前は！

男 いえ、そういうんじゃないんです！

ナツキ お父さん！関係なんだから！向こう行って！

井上 関係ない？関係ないとは随分と冷たい言い方じゃないか

ナツキ もうめんどくっせくなくいいから、黙ってて！

井上 分かった：

ナツキ で？なんか、忘れ物？

男 いえ、その

ナツキ それでどうしたの？やっぱりお母さんじゃ勝てなかった？

男、首を振る

ナツキ　そもそも勇者はお母さんじゃなかったとか。

男　（くびを振って）悪の化身は倒され、世界は平和になったんですが？

ナツキ　ほんとに勇者だったんだ…

男　ナツキさん、助けて下さい！

ナツキ　は？

男　僕は反対したんです。いくら勇者として世界えお救ってくれたとはいえ、お母さんを女王にするなんて…

井上　シンちゃんはさつきから何の話をしてるんだ？

ナツキ　だからお母さんがシンちゃんたちの世界を救いに行つてく

男　（さえぎり）われわれには勇者殿の暴走を止める術はありません。われわれの世界を救えるのは、あなたしかいないのです！

ナツキ　いや、ちよつと…

井上　まちたまえ！

男　お父さん？

井上　愛する我妻の一大事！夫として男として！ここで立たずに役立たず！

男　ここで、しもねた　つて

なつき　おとうさん！お母さんは異世界へ

井上　なつき！男の生き様見せてやるぜ！さあ！いくぞ！アルベルト・デル・モンテ・オグリ・サンチエス・ダニエル・タロ

ウ・ヴァン・デン・シンドラー

男　お父さん話わかってます？

井上　さあ！いざ！

女王様の音楽

高みに　母が女王様となって現れる。

男 あれは！

なつき お母さん？

母 はははははははははは

男 お父さん！よろしくお願ひします！

井上 いやゝあのゝ

母 ハハハハハ

男・なつき お父さん！

井上 …

母 ハハハハハハハハハハ

ナツキの母の笑い声とともに暗転